

農作物の生育状況と今後の見通し

農業振興戦略監とつり農業戦略課 研究・普及推進室 まとめ
令和2年11月16日 現在

作物名		生育状況等	今後の見通しと対策
作物	水稻	・水稻収量は全般的には平年並。早生品種は平年並～やや多い傾向だが、中生品種は9月中旬以降の日照不足等も影響し、くず米が多く、平年に比べやや低い傾向。品質は8月から9月上旬にかけてのフェーンを伴う高温登熟の影響等で、白未熟粒の発生が多く、特に中生品種では平年に比べ整粒率、1等比率が低下傾向である。	・特になし。 ・次年度に向けては、フェーン時の入水や早期落水の防止等、水管理の適正化を周知していく。
	大豆	・6月播種ほ場の収量は平年並だが、湿害を受けたほ場は雑草が繁茂し低収。干ばつでかん水できなかつたほ場で、成熟のばらつきや青立ちがみられた。 ・長梅雨の影響で播種時期が遅れた8月上旬播種ほ場では、ほ場により成熟時期に差がみられるが、11月中下旬が収穫適期となる見込み。	・収穫前の雑草対策を徹底し、汚損粒の発生を防止する。 ・適期収穫、適正な乾燥調製を行う。
	麦	・農業試験場の生育観測ほ場では、11月6日播種で11月14日～15日に出芽揃いを迎えた。 ・現地ほ場では、二条大麦は10月末から播種が行われており、11月下旬に終了する見込み。小麦は11月上旬中旬を中心に播種作業が行われている。	・排水対策を行いながら、適期播種に努める。播種後も排水に努める。
果樹	ナシ	・晩生梨「王秋」の収穫、選果作業中。 ・「王秋」のホルクスポットの発生が例年より多く発生している。 * 11月12日選果場での聞取り: 平均で大山7%、琴浦10%発生	・病害虫の越冬量を減らすため、落葉の処分を徹底する。 ・積雪に備えて、棚の点検を行い、不良箇所を補修、網の収納等を行う。また、中柱(突き上げ柱)やモウソウ竹による支えを入れる。作業小屋などに、あらかじめ融雪材(モミガラくん炭など)を用意しておく。
	カキ	・富有は収穫の最盛期を迎えている。 ・カメムシやカイガラムシ被害が多い園がある。	・カイガラムシ等の対策として、冬季に粗皮削りを行う。 ・積雪に備えて、モウソウ竹で大枝の突き上げをしておく(枝折防止)。
野菜	白ねぎ	【春ねぎ】 ・8月の高温乾燥の影響で生育は遅れているが回復しつつあり、現在の生育は順調。 【夏ねぎ】 ・順次播種されており、育苗は概ね順調な生育。ただし、448穴トレイ育苗では、メーカーの専用培土供給停止に伴う培土試行錯誤のなかで生育不良が見られる。 【秋冬ねぎ】 ・出荷中のものは全体的に肥大不足で2L規格以上の割合が低く、L規格中心となっている。出荷量も昨年と比べ、1～2割程度少ない。	【夏ねぎ】 ・11月下旬からトンネル作型の定植となる見込み。 【秋冬ねぎ】 ・積雪地では畝の両サイドにハウスバンドを張る等、降雪による葉折れ防止対策を実施する。 ・さび病の予防防除を徹底するとともに、発生ほ場では早期に防除を行う。 ・小菌核腐敗病の発生時期を迎え、土寄せ時の予防防除を徹底する。 ・ネギ黒腐菌核病の発生が懸念されるほ場は、生育期防除を徹底する。
	ブロッコリー	【秋冬ブロッコリー】 ・出荷中のものは定植時の高温乾燥により生育が1週間程度遅れており、収穫進捗率は10～15%程度。 ・病害虫発生や気象災害はほとんどなく、品質は良い。	・べと病、菌核病の防除を徹底する。
	らっきょう	・福部地区、北栄地区とも概ね順調に生育。	・低温期に入るため、白色疫病の予防防除を徹底する。 ・種球ほ場のウイルス症状を示す株の抜き取りを徹底する。
	抑制ミニトマト	・収穫終盤にさしかかり、うどんこ病、すすかび病、灰色かび病の発生が見られるが少発生で、順調に出荷中。	・熟期促進のため、ハウスの保温に努める。 ・収穫は12月末まで続く見込み。
	にんじん	・11月16日から出荷。高温乾燥による初期生育の遅れで肥大が遅れていたが、例年並に回復している。しかし、発芽揃いが不良であったことから、全体的に揃いは悪い。	・斑点細菌病の防除を徹底する。
	いちご	・頂花房開花中。昨年より1週間程度遅れているが、概ね順調に生育。	・ハダニ防除を徹底する。天敵利用の場合は今月中に放飼する。 ・炭酸ガス施用する場合は、今月下旬から開始する。
花き	シンテッポウユリ	【ハウス抑制作型】 【北栄町】 ・収穫は8～9割終了。出荷ピークは9月下旬～10月上旬だった。 ・11月中旬の平均単価は130円。日量2000～3000本程度出荷中。 【倉吉市】 ・病害虫も少なく、収穫は終盤(大栄花き部会として出荷)。	【ハウス抑制作型】 ・気温が低下してきているので、ハウスサイドを閉めて保温に努め、葉枯病防除を合わせて行う。 【R3年用露地季咲作型】 ・F1オーガスタ以外の品種を注文せざるを得ない状況。R3年用の種子の発芽率に不安があることから、園芸試験場に発芽試験を依頼予定。
	ストック	【東部地区】 ・船岡地区で春の彼岸用に1戸が9月15日、1戸が9月30日に播種。 【中部地区】 【倉吉市】 ・10月下旬から収穫開始。 ・生育は順調であるが8月15日～20日播種分で葉枚数が少なく、丈が短い傾向にある。 ・草丈伸長を目的に1戸がLED-FR灯によるEOD電照を実施中。 【北栄町】 ・現在収穫中。スタンダードで3～4万本/日(週3回)、85円/本、スプレーで1万本、100円/本。SD、SPとも10～20円高単価で推移している。 ・アブラムシ、菌核病の発生が見られる。 【西部地区】 【伯耆町】 ・収穫は終了。全体に開花が遅れ、11月前半の出荷量は昨年の7～8割程度となっている。10月下旬から灰色カビ病の発生が見られる。 【大山町】 ・11月5日の花芽分化調査で、9月4日播種(播種後62日)の ピンクアイアン、9月11日播種(播種後55日)のホワイトアイアンで花芽分化が確認された。 ・10月17日から出荷が行われているが、一部で灰色かび病や菌核病、アブラムシの発生が見られている。	・収穫まで時間があるところは液肥の施用や可能であれば電照等で草丈伸長を図る。 ・菌核等の発生やアブラムシも散見されるため、防除に努める。 ・11月中旬は平年より気温が高いと予報されているため、収穫遅れに注意する。 ・12月以降は平年並みの気温で推移すると予報されており、咲き進みが遅くなると想定されるため、可能なところは電照の準備をしておく。
イタリアンライグラス、飼料用稲等	○イタリアンライグラス 【東伯地区】 播種はほぼ終了。生育は順調。 【西部地区】 発芽・生育良好。 【大山地区】 ・播種作業中。 ・夏季に播種した香取地区では10～15cm程度に生育。 ・例年、耐雪性に実績のあるナガハヒカリが作付けされているが、種子が入手困難なため、大山キラリが播種されている。 ○飼料用稲WCS 【鳥取・八頭地区】 ・170haの作付け。11月13日に岩美町で収穫終了。 ○飼料用米SGS 【鳥取・八頭地区】 ・SGS(もみ米のサイレージ)向けは80haの作付けで、10月第2週から本格的に調製作業中。 ○他牧草 【鳥取・八頭地区】 ・(湖山池地区)10月31日、11月8日に湖山池の三地区(瀬、三津、西桂見)でイタリアンライグラス等の播種を実施。 【西部地区】 ・エンバク収穫中、収量は平年より低い。	○イタリアンライグラス 【西部地区】 ・気温が高いことが続く牧草の生育が早まることが予想される。 ○飼料用稲WCS 【鳥取・八頭地区】 ・残る収穫は八頭町で、11月第3週中に終了予定。 ○飼料用米SGS 【鳥取・八頭地区】 SGSは11月第3週中に終了予定。	